

園児イモ掘りに大奮闘



学校法人御笠学園の4つの幼稚園の園児約700名は10月26日から11月7日のうち4日間、サツマイモの収穫体験をしました。

収穫したサツマイモは「紅はるか」。食農教育の一環として、同学園で「アグリの先生」を務める筑紫野市牛島の倉永保さんをはじめ地元の組合員が、圃場を管理し育ててきたものです。収穫時はJA筑紫針摺支店の店舗運営委員や職員もサポートしました。

11月4日に収穫体験をした、たかお幼稚園の園児らは畑の畝に1列に並び、合図と同時に手を真っ黒にして掘り出しました。顔よりも大きなサツマイモに驚き「大きいのがとれたよ！」と満面の笑みを浮かべ、収穫を楽しみました。

同幼稚園の松田潤哉園長は「子ども達にとって広い畑で農業体験をすることはとても貴重で良い経験になりました」と話しました。

2022年産大豆収穫前研修会



JA筑紫は7日、筑紫野市のJA物流センターで、2022年産大豆収穫前研修会を開きました。大豆の収穫を前に、管理や刈り取り作業の注意事項について再確認し、高品質な大豆の収穫を目指します。

研修会には、大豆生産者や福岡普及指導センター、JA全農ふくれん、JA職員など20名が参加し、22年産大豆の情勢などについて説明。参加者は真剣な表情で聞き入っていました。今後の青立ち株の抜き取り作業や適期水分での刈り取りなどについても再確認しました。

被災した地域等へ義援金を贈呈



JA筑紫は9日、被災した地域の復興などを支援するため、義援金をJA福岡中央会へ届けました。義援金は、JA筑紫が組合員などを対象に開いた「ふれあいゴルフコンペ」の参加費の一部などで、同中央会を通して被災地へ送られます。JA筑紫の白水清博組合長から同中央会の乗富幸雄会長へ手渡しました。

白水組合長は「組合員と利用者が寄付してくれた義援金を被災地で役立ててほしいです」とあいさつ。乗富会長は「義援金にご協力いただいた方々の想いをしっかりと届けたいです」と謝辞を述べました。

まちの安全に貢献・防犯資器材贈る



JA筑紫は11日、春日、筑紫野両警察署で、資機材の贈呈式を開きました。

筑紫野署では、古江昌親署長や、JAの白水清博組合長らが参加。筑紫交通安全協会と筑紫野・太宰府防犯協会へ指導旗62本とデジタルサイネージ1台を贈りました。警察署入り口やキャンペーン会場に設置し、二セ電話詐欺や交通事故防止等の啓発に役立てます。

JAは、ローン収益で、安全安心まちづくりに役立つ資機材を関係団体へ贈る取り組みを10年以上続けています。また、飲酒運転の撲滅、交通事故防止を組合員や利用者へ呼び掛けています。

今回は2021年9月1日～22年5月31日まで販売した「安全運転推進マイカーローン」の収益の一部などを使い、贈呈しました。

白水組合長は「安全安心なまちづくりに役立ててほしいです」と話しました。

未来を担う子供たちに地産地消をPR



JA筑紫は13日、筑紫野市のイオンモール筑紫野で開かれたイベント「まなべる道の駅 おいしくまなぶMON」に初参加しました。同イベントは子どもたちを対象に地元について楽しく学ぶことを目的に開催されました。

販売ブースでは、同JAの農産物直売所ゆめ畑が、JA管内で採れた農畜産物を販売し、食の安全・安心と地産地消をPR。新米の販売では、同JA稲作部会の部会員らが対面販売を行い、生産者の生の声を消費者へ届けました。

また、同イベントの体験ブースでは、食農O×クイズを行い、多くの来場者が参加しました。

体験に参加した子どもは「難しかったけれども、楽しかったです」と話しました。

色とりどりの花を楽しむ



JA筑紫安徳支店女性部は25日、那珂川市の同支店で寄せ植えの講習会を開きました。同支店女性部員23名が参加しました。

今回は、那珂川市の「グリーンフィンガーズ」のNoriko.さんを講師に招き、パンジーやハボタンなど5種類の花を使った寄せ植えに挑戦。Noriko.さんは実演しながら植え方や肥料のまき方などのポイントを説明しました。部員はプランターに色とりどりの花を試行錯誤しながら植えました。

参加した部員は「どこに飾るか楽しみです。水やりなどに気を付けて育てたいです」と笑顔で話しました。

今後も、部員同士が交流を深められる支店活動を実施していきます。

福岡県知事賞受賞・農産物品評会



JA筑紫は、11月30日に筑紫野市のJA本店で、農産物品評会2022を開きました。JA管内の生産者が出品した野菜や果実、花きなど433点から、優秀賞19点、優良賞30点を選出しました。

12月1日に行った表彰式では、最高賞の福岡県知事賞に輝いた矢加部忠勝さんをはじめ、特別賞を受賞した生産者16名のうち8名を表彰しました。表彰式は、例年JA収穫祭「ふるさとまつり」で行っていますが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、単独での開催となりました。

船越勝典専務は「今年も多くの方に出品していただき大変ありがとうございます」と感謝を述べました。

品評会は毎年、JA管内の農畜産物の技術改良や商品性の向上、消費拡大を図る目的で開いています。福岡農林事務所福岡普及指導センターの釜瀬健一センター長を審査委員長に、審査委員12名が品種の特徴や揃い、品質、商品性などを審査しました。